

お客様:大手保険会社

### 企業規模

- 業種：保険
- 保険料収入：6兆円
- 従業員数：6,127名

### プロジェクトの目的

- 総合会計システムの機器更新に伴い、会計システム（Oracle EBS）のアップグレードを実施

### お客様が抱える課題・問題点

- 使用しているH/W,S/Wの保守切れに伴い、機器更新が必要であったが、EBSのアップグレード実施方法がわからないこと
- 基盤からアプリケーションまで含めて、機器更改に向けたプロジェクト管理のノウハウがないこと

### 問題解決の方向性

- IBMのアップグレード手法を用いて、年末年始の限られた時間に円滑なテクニカルアップグレードを実施すること
- プロジェクト計画の策定から、プロジェクト運営までを一括して担当のうえ、プロジェクト全体を管理すること

### 期待効果

- 保守切れとなった現行会計システムの確実なアップグレード
- Oracle EBSのアップグレードに伴い、非互換によって改修が必要な機能を現行同等に利用できる
- 基盤からアプリケーション・運用まで含めて考慮した、プロジェクト運営が実施できること

### ERP Cloudオラクルソリューションを選ばれた理由

- 今回の機器更改によって、現行同等な機能を維持することが目的だったため、継続してOracle EBSを利用することになった

### ソリューションイメージ



### プロジェクト規模

- 導入モジュール：EBS Fin GL/AP/AR
- 使用ユーザー数：約6,000ユーザー
- 導入期間：影響調査 10ヶ月
- アップグレード支援 16ヶ月(内訳：アップグレード支援13ヶ月、稼働後サポート3ヶ月)

### その他(Why IBM?、期待効果、その他特記事項)

- 構想策定から実行まで一貫したご提案とコミットメント
- 豊富なプロジェクト実績とノウハウ
- トータルソリューションサービス

お客様:大手鉄鋼会社

企業規模

- 業種：製造
- 資本金：300億円
- 従業員数：3,843名

プロジェクトの目的

- 現行会計システムの継続使用とインフラ基盤の強化を目的として、会計システムを構成するH/W、S/W、Oracle EBSのアップグレードを実施する

お客様が抱える課題・問題点

- ハードウェア(本番サーバー)の保守サポートが終了してしまうタイミングを向かっておりシステム運用面でのリスクが発生する
- 現行会計システムを継続利用していきたいが、Oracle EBS(11.5.9)はPremier Supportが終了し、Sustaining Supportに切替わっており、新たなバグ発生時のパッチ提供がされない状況にある

問題解決の方向性

- EBSを最新バージョンに移行することにより、相応のサポートを得るとともに、最新のOS、ハードウェアへの移行を可能にする
- クライアントPC環境に関して、将来の統合PCのWindowsへの更新に対応可能なEBSバージョンとする

期待効果

- EBSのアップグレード及び非互換対応を実施することにより、現行会計システムでの業務と同等の業務遂行が可能となる
- 災害対策や統合PC更新など、インフラ環境更改に対応できるインフラ基盤のレベルアップが可能となる

ERP Cloudオラクルソリューションを選ばれた理由

- 現行会計システムの継続使用が目的のひとつであるため、テクニカルアップグレード方式でのソリューションが採用となった

ソリューションイメージ



プロジェクト規模

- 導入モジュール：Oracle EBS Fin AP/AR/GL
- 使用ユーザー数：約2,000ユーザー
- 導入期間：14ヶ月(内訳：影響調査2ヶ月、検証3ヶ月、実施7ヶ月、稼働後フォロー2ヶ月)

その他(Why IBM?、期待効果、その他特記事項)

- 構想策定から実行まで一貫したご提案とコミットメント
- 豊富なプロジェクト実績とノウハウ
- トータルソリューションサービス

お客様:大手石油会社

企業規模

- 業種：製造
- 資本金：500億円
- 従業員数：9,137名

プロジェクトの目的

- 現行会計システムのEBSを最新バージョンに移行することにより、基幹業務システムとしての相応のメーカーサポートを得るとともに、アップグレードされたOS、ハードウェアの恩恵を受けることを可能にする
- 発生源サーバー（Windows）を経理サーバー（AIX）に移行することで、会計システム内で統一のシンプルな運用を実現する

お客様が抱える課題・問題点

- ハードウェアおよびソフトウェアの保守サポートが終了してしまうタイミングを向かっておりシステム運用面でのリスクが発生する
- 現テクニカル・アップグレードで最新バージョンに移行したいが、業務的に連続したシステム停止時間を確保することができない

問題解決の方向性

- EBSを最新バージョンに移行することにより、相応のサポートを得るとともに、最新のOS、ハードウェアへの移行を可能にする
- EBS移行方式を平日にテクニカル・アップグレードを行い、その期間入力されたデータを週末に差分移行する方式を採用する

期待効果

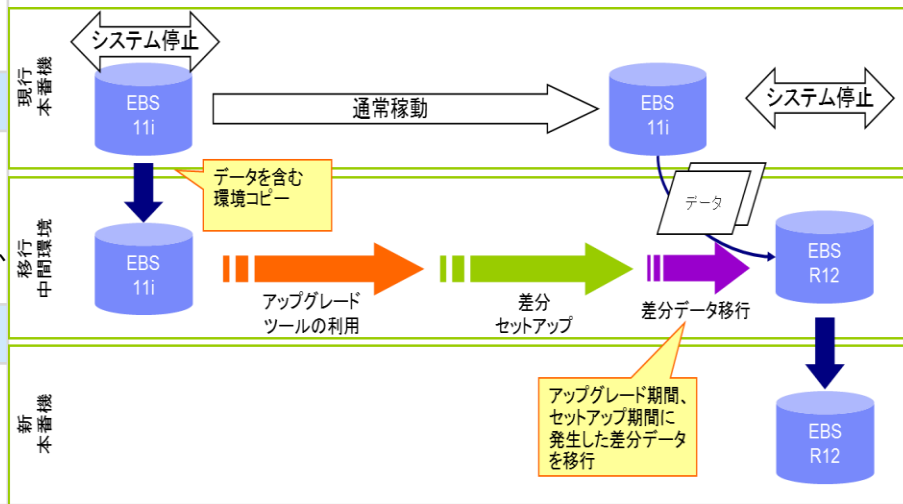
- EBSのアップグレードに必要なシステム停止期間を休日のみとし、業務は通常とおりに継続できる
- ❖EBSと発生源入力システムを共通の基盤で稼働させることで、会計システムとしてシンプルな運用が可能になる

ERP Cloudオラクルソリューションを選ばれた理由

- 15年近く利用していたシステムを継続して使用するため、EBSのテクニカルアップグレード+差分移行方式でのソリューションが採用となった

ソリューションイメージ

移行方式：テクニカルアップグレード+差分移行



プロジェクト規模

- 導入モジュール：Oracle EBS Fin AP/AR/GL
- 使用ユーザー数：約7000ユーザー
- 導入期間：14ヶ月(内訳：検証4ヶ月、実施13ヶ月、稼働後フォロー1ヶ月)

その他(Why IBM?、期待効果、その他特記事項)

- 構想策定から実行まで一貫したご提案とコミットメント
- EBSアップグレードに関するプロジェクト実績とノウハウ
- 単純なEBSアップグレードだけではなく、サーバー統合など基盤や周辺システムの整合性・技術検証をサポートするトータルソリューションサービス